

令和4年度（第61回）農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（トップリーダー発表会）

【地域畜産業の基盤となる大規模自給飼料生産・活用型TMRセンター】

《スケジュール》

13:30～16:00

（敬称略）

- | | | | | |
|---|------------|--------------------------|----|----|
| 1 | 開 | 会（13:30） | | |
| | | 公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事 | 小栗 | 邦夫 |
| 2 | 挨 | 農林水産省大臣官房政策課政策情報分析官 | 秋葉 | 一彦 |
| | 拶 | 熊本県農林水産部長 | 竹内 | 信義 |
| 3 | 選 | 農林水産祭中央審査委員会畜産分科会主査 | 栗原 | 光規 |
| | 賞 | （農研機構・企画戦略本部研究統括部 | | |
| | 審 | スマート農業事業推進室長） | | |
| | 査 | | | |
| | 報 | | | |
| 4 | 業 | 令和4年度畜産部門天皇杯受賞 | | |
| | 績 | 株式会社アドバンス（熊本県菊池市）代表取締役 | 永田 | 浩徳 |
| | 発 | | | |
| | 表 | | | |
| | | | | |
| | 休 | 憩（14:30～14:40） | | |
| 5 | ディスカッション | （14:40） | | |
| | （登壇者） | | | |
| | ・コーディネーター | | | |
| | | 栗原 光規（3に同じ） | | |
| | ・業績発表者 | | | |
| | | 永田 浩徳（4に同じ） | | |
| | ・コメンテーター | | | |
| | | 農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員 | 小泉 | 聖一 |
| | | （日本大学生物資源科学部特任教授） | | |
| | | | | |
| | | 農研機構・生物系特定産業研究支援センター | 大下 | 友子 |
| | | 事業推進部戦略的研究開発課研究リーダー | | |
| | | | | |
| | | 熊本県県北広域本部農林水産部農業普及・振興課主幹 | 廣瀬 | 大造 |
| | | | | |
| | （内容） | | | |
| | ・意見交換、質疑応答 | | | |
| | ・総括 | | | |
| 6 | ご紹介・ご挨拶 | 令和4年度多角化経営部門天皇杯受賞 | | |
| | | 株式会社パストラル（熊本県山鹿市）代表取締役 | 市原 | 幸夫 |
| 7 | 閉 | 会（16:00） | | |

令和5年 2月 21日:ホテルメルパルク熊本

令和4年度(第61回)農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」 (地域畜産業の基盤となる大規模自給飼料生産・ 活用型TMRセンターの取組)

選賞審査報告

農林水産祭中央審査委員

畜産分科会主査

栗原 光規
(農研機構)

【農林水産祭の趣旨】

国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施。令和4年度は61回目。

【農林水産祭選賞部門】

- 農産・蚕糸部門
- 園芸部門
- 畜産部門
- 水産部門
- 林産部門
- 多角化経営部門
- むらづくり部門
- 女性の活躍

【授賞区分】



天皇杯



内閣総理大臣賞

日本農林漁業振興会
会長賞

【第61回農林水産祭選賞経過】

- **選賞対象**: 令和3年7月～令和4年6月の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞した390超の出品財うち、畜産部門の審査対象数76点（内訳産物58、技術・ほ場3、経営15）

- **選賞経過**

令和4年7月13日 第1回畜産分科会にて書類選考
現地調査3候補の選定

令和4年8月9～19日 現地審査（1ヶ所はリモート開催）

令和4年9月12日 第2回畜産分科会にて三賞選考

- **選考委員**（畜産分科会委員・専門委員）

＜委員＞

栗原光規（農研機構）、柏崎直巳（麻布大学）、矢野小夜子（元京都府畜産センター）

＜専門委員＞

小泉聖一（日本大学）、仙北谷康（帯広畜産大）、野中最子（農研機構）

勝田 賢（農研機構）、白田一敏（ピー・ピー・キューシー）、川田智弘（栃木県庁）

野中和久（農研機構）、井口明浩（元千葉県畜産総合センター）

* 下線は本日の発表会参加者

【今年度の三賞決定】

- ・ 天皇杯 技術・ほ場(飼料生産) 熊本県菊池市

ながた ひろのり

株式会社アドバンス(代表 永田 浩徳)

「地域畜産業の基盤となる大規模自給飼料生産・活用型TMRセンター」



- ・ 内閣総理大臣賞 経営(養豚) 岐阜県高山市

よしの つよし・よしの さとこ

吉野 毅・吉野 聡子

「飼養衛生管理徹底と完全無薬化による
安全・安心で健康な豚肉の生産」



- ・ 日本農林漁業振興会会長賞 経営(採卵鶏) 岡山県笠岡市

たかた あきひこ

有限会社たかた採卵(代表 高田 安紀彦)

「小規模採卵養鶏経営における女性の活躍を
いかした6次産業化の実現」



【審査の基準】

経営全体を審査するとともに、その経営が地域社会において果たす役割についても十分考慮すること。

【経営的視点】

- ① 経営の合理性、安全性
- ② 生産基盤の整備、資本装備の投資、利用効率
- ③ 管理(労務管理等を含む)、計画性、改善意欲

【技術的視点】

- ① 技術の優秀性、先進性、波及性

【総合的視点】

- ① 経営、生産性、所得、コンプライアンス
- ② 女性の活躍

【令和4年度畜産部門天皇杯((株)アドバンス)受賞理由】

・受賞者の取組の経過と経営の現況

- 平成 19 年に酪農家20戸を構成員として、飼料用トウモロコシの生産・サイレージ調製及び 発酵TMR製造・供給を目的とした大規模自給飼料生産・活用型TMRセンターとして、酪農家への飼料供給を受託面積延べ130haで開始
- 平成22年度より、肉用牛農家にも供給開始
- 平成27年度にバンカーサイロを8基から11基に増設
- 平成 28 年度に育成牧場 を併設し、預託を受けた乳用種育成牛に黒毛和種牛の受精卵を移植することで和牛子牛の供給を開始(キャトルブリーディングステーション(CBS)との連携)
- 現在、熊本県菊池地域の
酪農・和牛生産振興の中核組織として活躍

・受賞者の特色①

【高品質で安価なトウモロコシサイレージを利用した TMR 生産と酪農家経営改善】



- 地域の多くの農家からの多筆圃場（約600筆、延べ328ha）でのトウモロコシ二期作栽培をICT技術により効率的に管理し、良質サイレージ調製およびエコフィード活用による高品質低価格TMR 製造（Non-GMO飼料も製造）を達成
- 地域内作業連携（収穫をコントラクターに委託）により、多忙な収穫時期もTMR製造に専念できる体制を構築
- 酪農家を年2回巡回し、ニーズに合った発酵TMRを調製・供給し、また飼養管理指導による技術向上により、1頭当たり日乳量の県平均より1割増加を実現



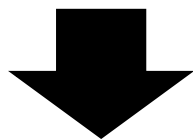
酪農家経営改善に貢献

・受賞者の特色②

【地域連携による酪農および和牛産業の振興】



- 乳用種育成牧場(300頭規模)を併設し、酪農家の育成牛管理に必要な労力軽減
- 子牛の生産拠点(CBS:年間500頭供給が目標)から提供を受けた黒毛和種牛受精卵を預託育成牛に移植することで、菊池地域での黒毛和種肥育素牛供給(約180頭)の一翼を担う



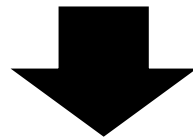
酪農に加え、和牛産業も含めた、
地域畜産業の持続性向上に貢献

・受賞者の特色③

【女性の活躍】

- 従業員7名のうち2名が女性であり、
事務担当者・・・99戸からの600筆の圃場作業の管理他、書類
作成・提出等を一手に担うことにより、
他職員が飼料生産や育成牧場管理に集中

生産管理担当者・・・フォークリフトの免許を取得し、
TMR製造を担当し、従業員間の負担分散

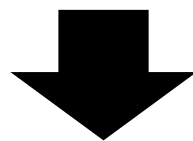


経営の効率化と生産性の向上に大きく貢献



・普及性と今後の展開方向

- 耕作放棄地を含む作業受託面積の拡大(H19:130 → R3:193ha)、高品質低価格TMR供給および飼養管理技術指導による規模拡大を志す者や新規就農者への支援、高年齢者の経営延長支援等の取組は地域を支えるモデル
- 上記に加え、併設の育成牧場による酪農家の労力軽減、黒毛和種肥育素牛生産は菊池地域の畜産業の発展の基礎であり、全国の先導事例



我が国の自給飼料基盤と地域畜産業の振興を図る
外部支援組織のモデルとして更なる発展が期待できる



～ 地域の畜産業を
支えるTMRセンター ～

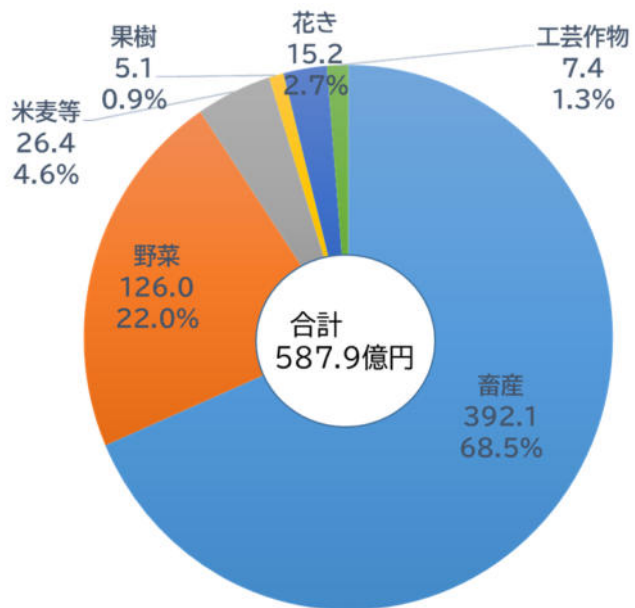


令和5年2月21日
(株)アドバンス

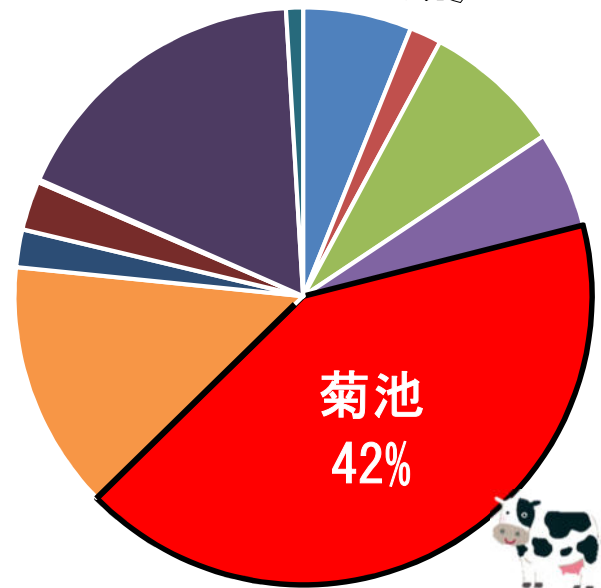
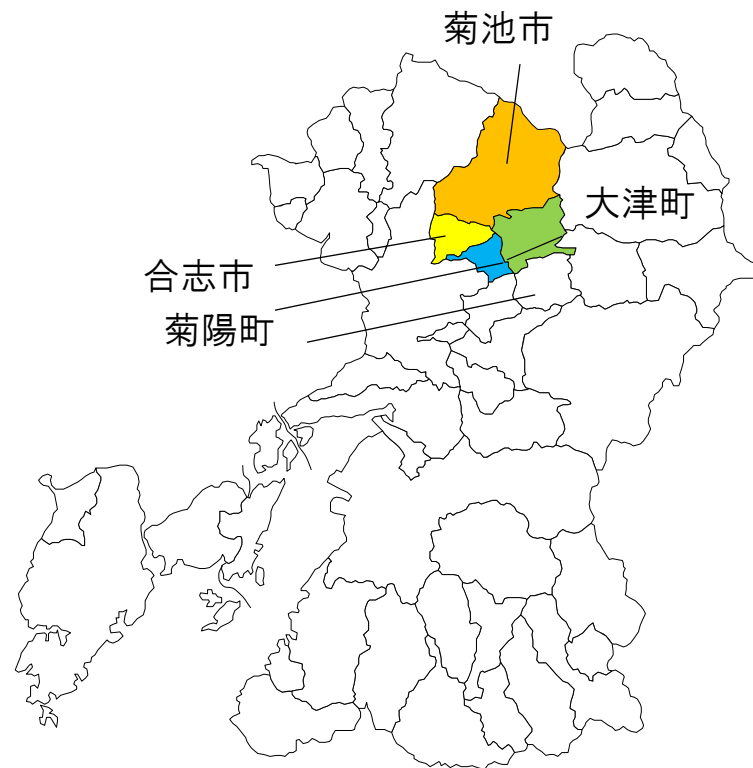
菊池地域の畜産概要

＜菊池地域＞

- ・熊本県北部に位置
- ・豊かな水資源と肥沃な大地を活かした農林畜産業を基幹産業としており、特に畜産業においては、西日本有数の産出額を誇る。



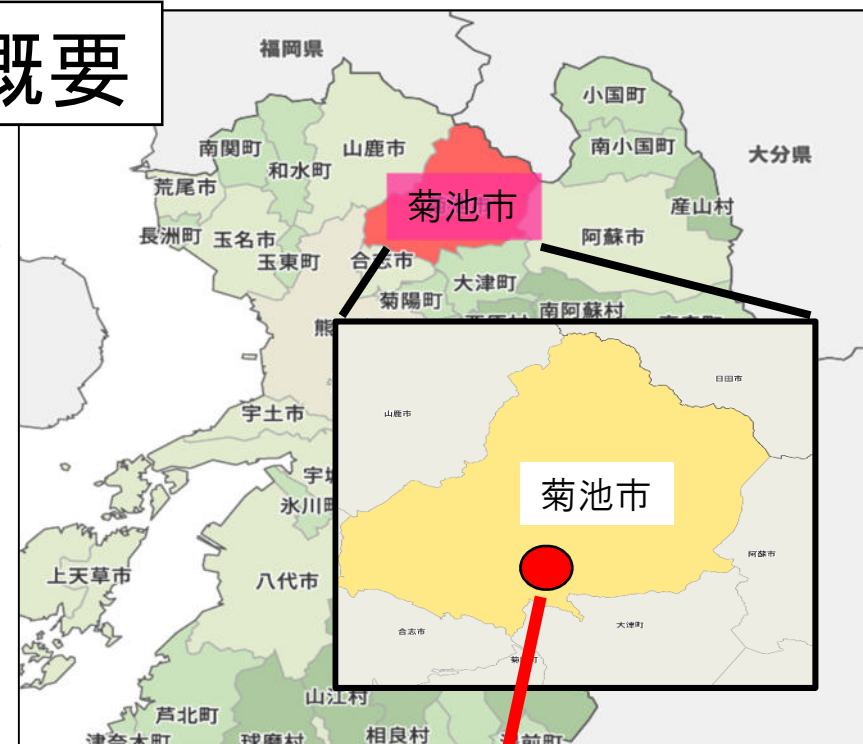
菊池地域の農業産出額概要



菊池地域の乳用牛飼養頭数

株式会社アドバンス 会社概要

- ・代表取締役 永田浩徳
(4代目)
- ・設立 平成19年4月
(平成20年4月稼働)
- ・売上高 722,727千円
(令和3年度)
＜内訳＞
飼料: 685,240千円
育成: 37,487千円



株式会社アドバンス 組織図

(R3年度時点)

株主(酪農家21戸)

代表取締役 1名

取締役 3名

構成員 17名

従業員数

代表取締役 1名

┆

工場長 1名

┆

従業員 7名

男性 5名

○工場・預託牧場 5名

女性 2名

○工場・預託牧場 1名

○事務 1名

臨時雇用1名

役員



従業員



施設概要(1)

バンカーサイロ 8基
(幅12m × 奥行40m × 高さ3m)

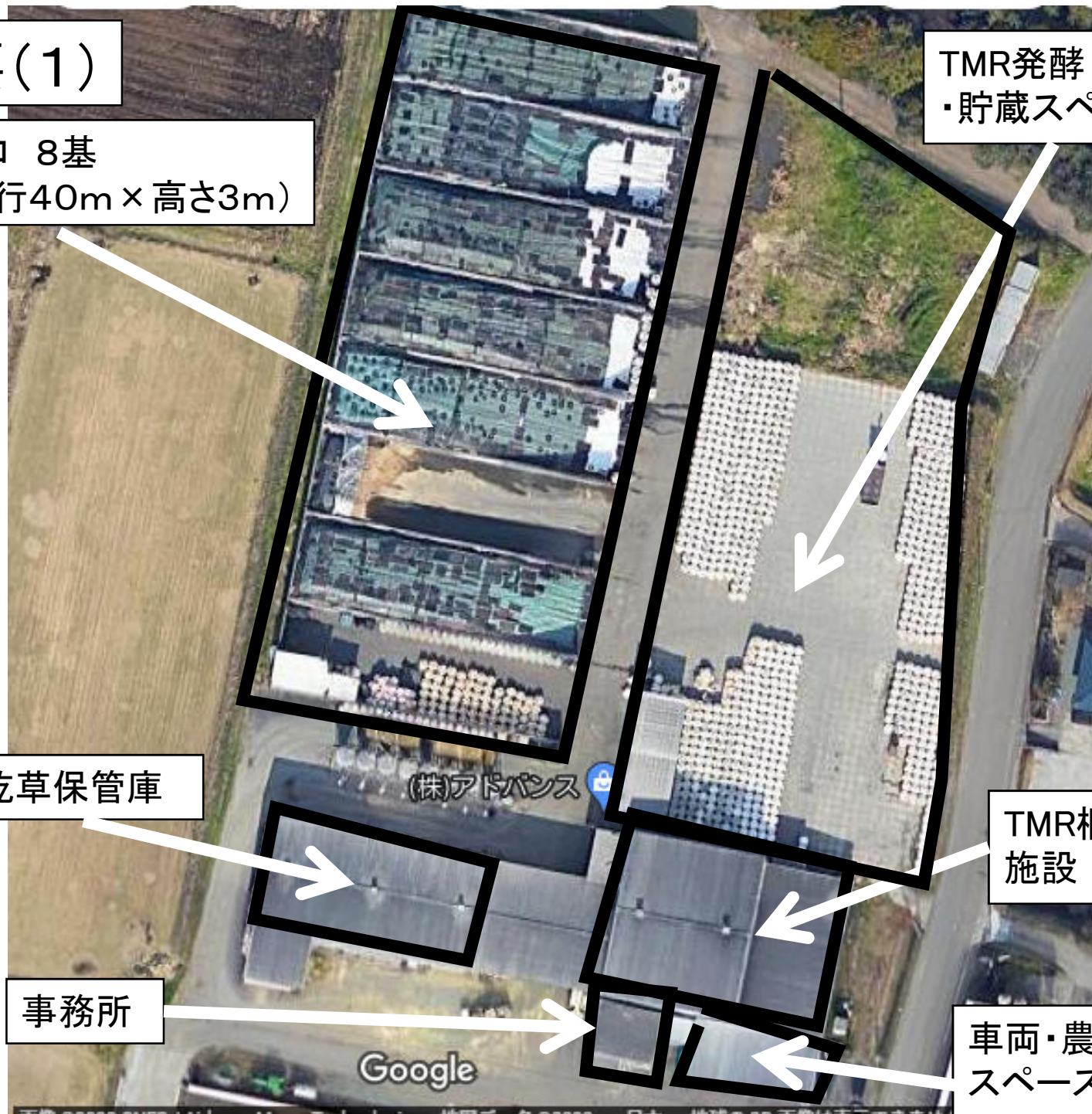
TMR発酵
・貯蔵スペース

乾草保管庫

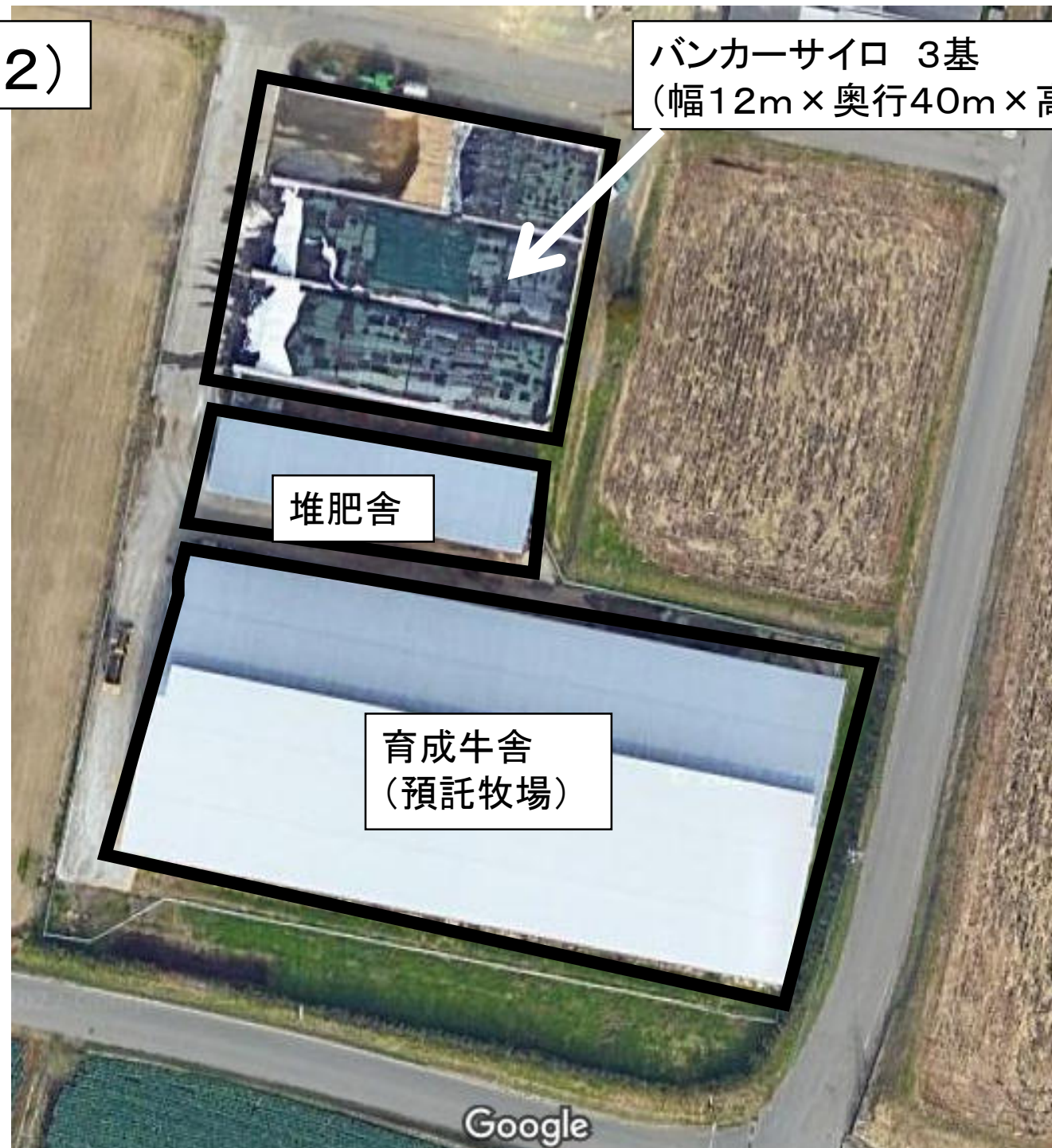
TMR梱包
施設

事務所

車両・農機具
スペース



施設概要(2)



組織発展の流れ

菊池市旭志地区の酪農家20戸からの出資金
強い農業づくり交付金事業を活用

平成19年 TMRセンターおよび大型バンカーサイロ8基を整備
作業受託面積延べ130haから開始

平成27年度 バンカーサイロ3基増設(畜産クラスター事業)

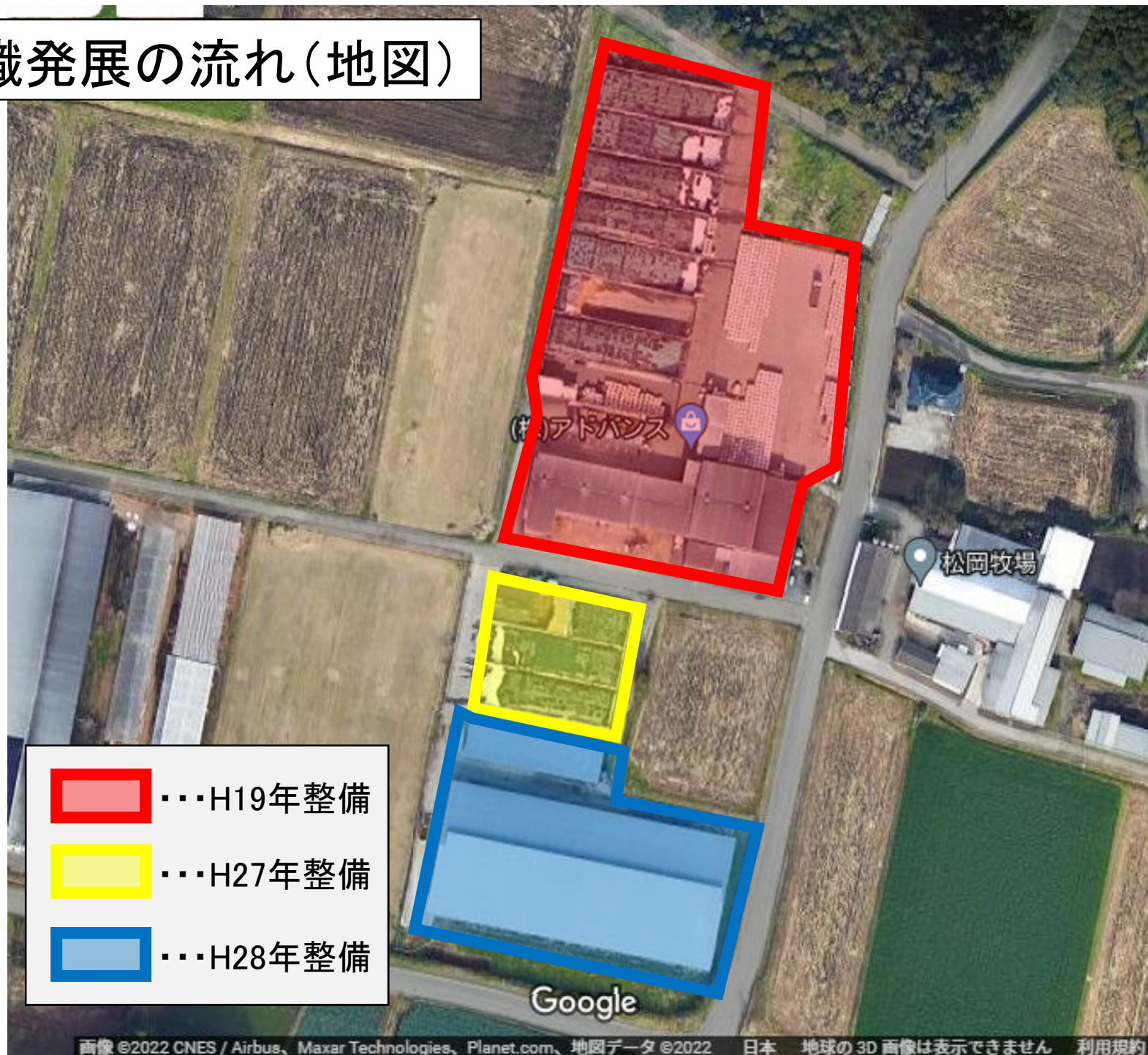
平成28年度 育成牧場整備(畜産クラスター事業)

乳用種育成牛の預託 (地区内酪農家)
預託牛への黒毛和牛の受精卵移植(JA菊池のCBSと連携)

令和 3年度 飼料用トウモロコシ作付および除草剤散布作業:
延べ320 ha
発酵TMR製造: 22, 088 t
育成牧場での預託: 年間250頭

※CBS: キャトル・ブリーディング・ステーション

組織発展の流れ(地図)



株式会社アドバンス

飼料用トウモロコシ
2期作（延べ320ha）



耕起・播種・
除草剤散布



収穫

（旭志中央支所
コントラクター利用組合）



サイレージ調製
12m×40m×3m/基



NON-GMO（別ラインで生産）



TMR調製 梱包（フレコンバック）



発酵・保存

TMRセンター

TMR供給



育成牧場

（育成・受精卵移植）

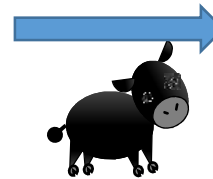
堆肥・スラリー散布



育成牛の預託



酪農家



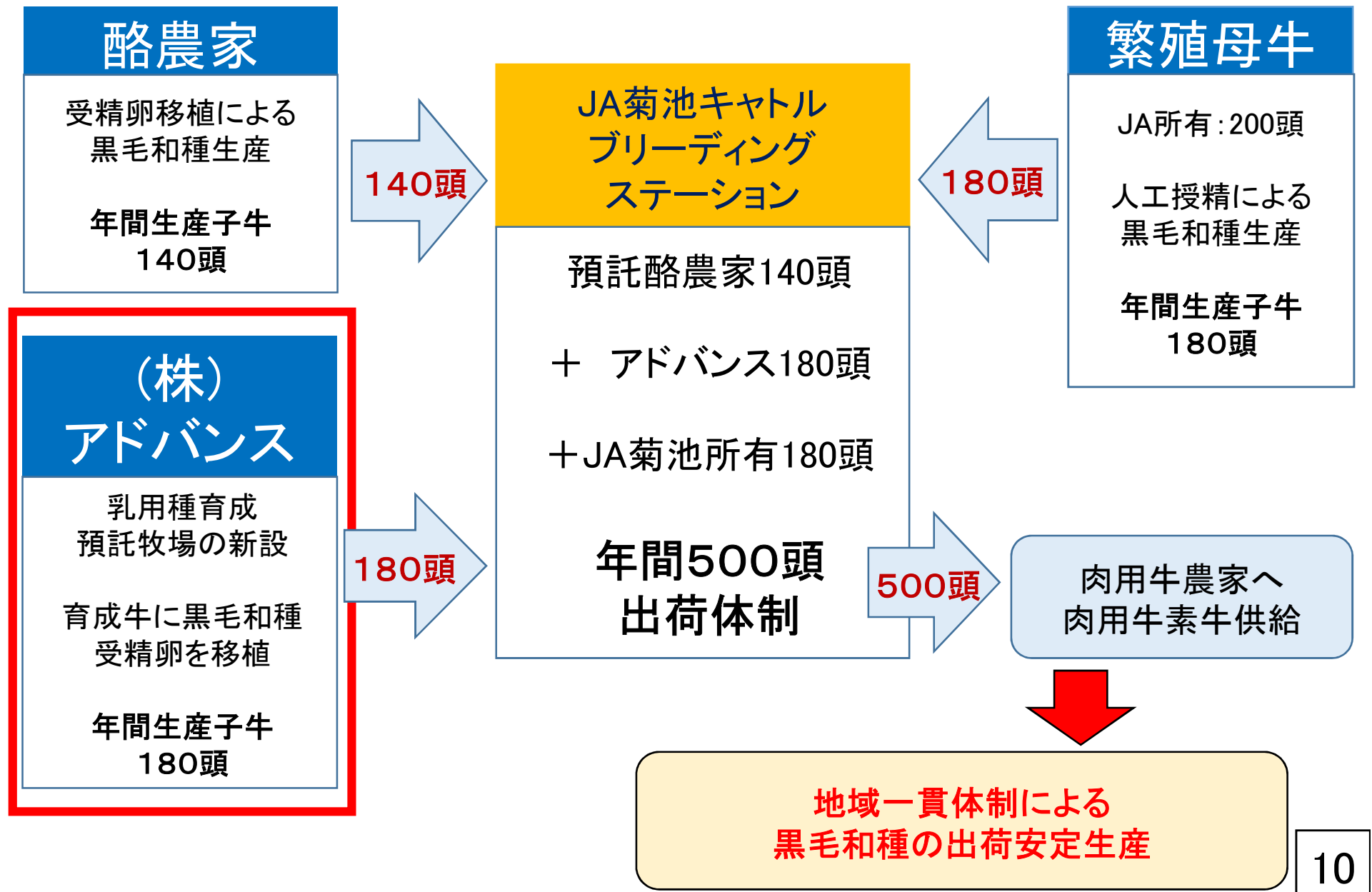
肉用牛
素牛供給



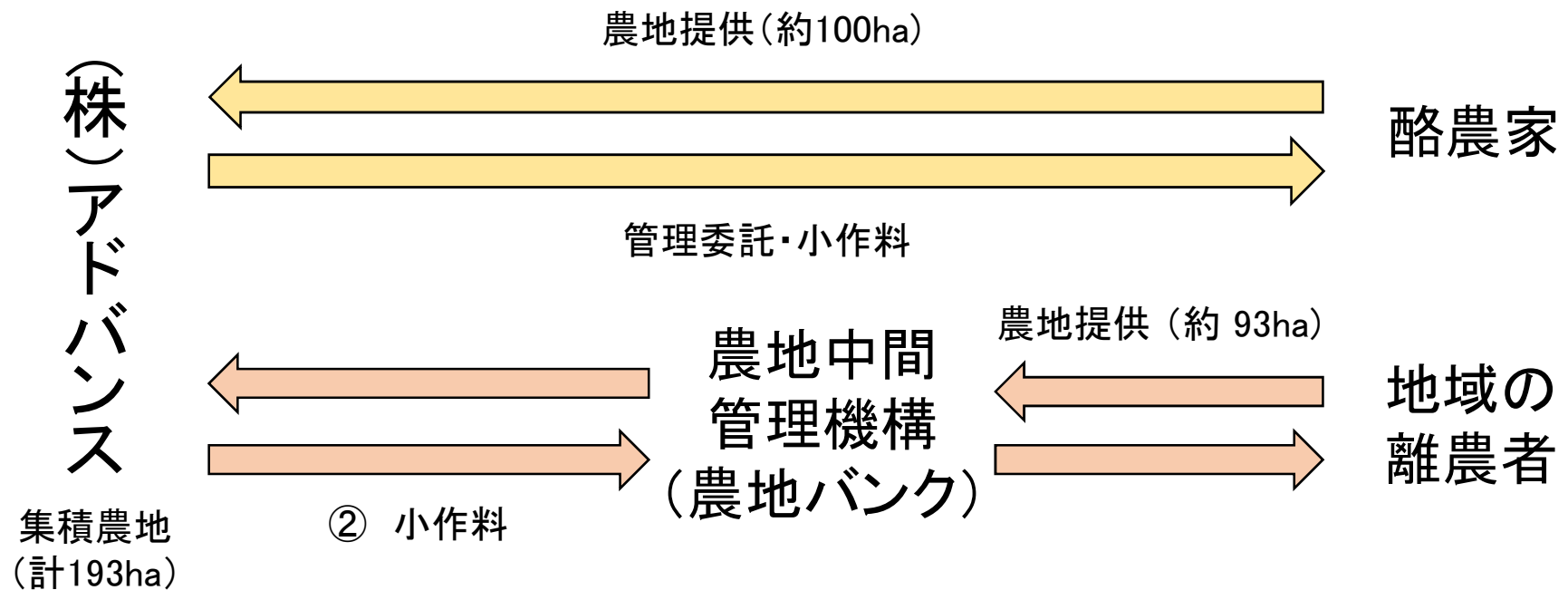
J A 菊池
キャトルブリーディング
ステーション

（肉用牛素牛の育成・供給）

JA菊池キャトルブリーディングステーションとの関係



(株)アドバンスの農地集積・管理



地理情報システム (GIS) を活用した
ほ場管理を実施
(播種など作業日の色分けして管理)



※農研機構 開発











(株)アドバンスの設立効果

<設立以前>

【労働面】

- ・ほ場の栽培管理
(堆肥等散布、作付、肥料・農薬散布など)
- ・家族総出でサイレージ調製(サイロ詰め)
- ・毎日のTMR調製
- ・乳用牛の育成管理

【構成員の頭数】

経産牛: 966頭/20戸、48.3頭/戸

【構成員の出荷乳量】

7,680t/20戸、383,984kg/戸
(H18年4月時点参考: 27.0kg/頭・日・戸)

【経営面積】

70ha(各農家約3haを各自管理)



<設立後>

【労働面】

- ・ほ場の栽培管理(堆肥散布等)
- ・サイロ詰めの際のトラック運転

(効果)

- ①作業削減: 約2時間/日
(TMR調製・育成管理作業の削減)
- ②サイレージ調製作業では約1人分削減

【構成員の頭数】

経産牛: 1431頭/24戸、59.6頭/戸

(効果) 465頭、約10頭/戸増加

【構成員の出荷乳量】

12,120t/23戸、526,966kg/戸
(R3年4月時点参考: 33.3 kg/頭・日・戸)

(効果) 4,440t、142,981kg/戸増加

菊池地域畜産クラスター協議会の計画目標
年間出荷乳量 82,000t達成に貢献

【経営面積】

193ha(各農家の管理委託を含む)

(効果) 耕作放棄地解消に寄与

今後の展望

- 作業受託面積およびTMR製造量の拡大
- 育成牧場の預託実績の積み重ね
- 新規就農者への飼料供給による経営支援
- 酪農家の経営延長支援



菊池地域の畜産業の発展に貢献！！



